

みんなで



里山のある風景

都心からほど近い四街道。私たちの周りには、当たり前のように里山があり、森があります。近年、この里山の風景がさまざまな事情により変わりつつあります。この風景を未来に繋ぐために私たちは何をしたらよいのでしょうか。里山に関わる団体の活動を通じて一緒に考えていきましょう。

変わりゆく

里山の風景



里山はこころの原風景

関東最大の北総台地の南端に位置する四街道。「里山」とは、人里に隣接する森や山のこと。なかでも台地上部の畑や草原、それに連なる谷を囲む雑木林、そして低地には水田という独特の「谷津田」の風景は、私たちのこころの原風景ともいえます。

里山や谷津田は、生活の糧を得る場として先人たちに大切に維持されてきました。同時に動植物の生育環境をつくり、私たちのリフレッシュの場・交流の場としての役割を果たしています。

しかし地域の高齢化や生活様式の変化、さらに相次ぐ自然災害で里山は放置され荒れ始めています。カヤの生い茂る水田、朽ち果てた広葉樹の森…。私たちの生活と森との距離がどんどん離れているのです。

平成18年、市で「四街道市みどりの基本計画」が策定されました。みどりを「守る」「創る」「育む」という視点から行政と市民ボランティア団体の協働が始まりました。推進委

員会では、各団体と市関係課が集まり、熱心に意見交換を行っています。

森が授ける至福の時間

「ザッ、ザッ」。南波佐間の森に響きわたるのは、炭焼き釜にくべるために落ち葉をかき集める熊手の音。「油をたくさん含んだ杉の葉は、火付きが良いので炭焼きには最高の着火剤です」と話すのは「あさひクヌギの里」会員の本田陽章さん。会では、森や里山で伐採された広葉樹や竹を活用して、年に4回炭を焼いています。市内唯一の釜は、平成13年地主の中臺祐三さん(故人)が作りました。炭を焼くことは、山の恵みを享受すると同時に資源を循環させること。炭で里山を守りたいとの思いからでした。

炭焼きは、根気や力、勘、運が必要な難しい作業です。十分に乾燥させた原木を窯にみっしりと立て込み火入れ。立ち上る煙の色を見ながら火を止め、炭化を進めます。空気をふさぎ、一週間ほど放

置して窯を開けます。

「窯をあける時が一番わくわくします」。窯の中から取り出した炭は、黒く艶を帯びた森からの贈り物。高級品として重宝される「菊炭」ができることもあれば、燃えつきて大半が灰になることも。「長く活動していても、確固たる技術の習得には至りません」とメンバーは笑います。さらに途中で出る煙や水蒸気も、冷却し丁寧に蒸留して木酢液や竹酢液として活用し、灰は家庭菜園で使用します。こうして循環型社会が構築されていくのです。

五感で季節のうつろいを楽しみ、そして森の資源を有効に使う。森はメンバーが至福の時間を過ごすための大切な場所です。



窯口で勢いよく上がる炎。原木は煙でいぶされていく

連絡先

あさひクヌギの里
電話：090-4120-3438 (前田)

未来へ伝えたい 里山への想い

連絡先

森林ボランティア
四街道フォレスト



危険木の処理は、入念に確認しながら

森の守人たち

森の整備の一翼を担うのが「森林ボランティア 四街道フォレスト」です。美しい自然が残る四街道を後世に残していこうと平成18年、森林インストラクターで市主催の「第1回林業大学」を卒業した桐山正治さんが7人のメンバーと立ち上げました。桐山さん急逝後、同じく林業大学で学んだ富所憲司さんがその遺志を継ぎました。現在36名が市内六つの活動拠点で樹木や林の伐採・下草刈りを行っています。

拠点の一つは、6団体が共同維持管理する「たろやまの郷」。フォレストは危険木の見回りや散策路の整備を行っています。「南波佐間の遊歩道」は2万本近くの竹が生い茂り、真つ暗だった場所を数年間かけて開墾。今では子育て団体の活動拠点として利用され、近隣の小学校の子どもたちも四季折々に自然観察会で訪れます。

穏やかな笑顔で森に繰り出す皆さんですが、元都の職員で都市公園の建設に携わった樹木医や飛行機の整

備士など経歴は多彩。得意な分野・

興味のある分野もさまざまで、マイペースに作業が行われます。とはいえ、立ち木を見上げるまなざしは一樣に植物への愛情にあふれています。

「かつて地域の中で整えられてきた森や里山が放置され、荒れていきます。さらに数年前発生したカシノナガキクイムシによるナラ枯れは県全体の深刻な問題になっています。今こそ行政や自治会、地権者とボランティア、市民の理解と協力が必要なのです」と富所さん。

一方、森の整備にはチェーンソー

や刈り払い機などを使う危険で体力のいる作業を伴い、メンバーは気が抜けません。森の守り人として、強く温かな志を持った若い世代の参加が熱望されています。



安全を確保し慎重に進む
チェーンソーの作業

里山のある風景を 未来につなごう

先人が生活の営みのなかで利用し、工夫し守り続けた四街道の美しい里山の風景。

今号の取材の中で、市内にはこの風景を守るために数多くの市民活動団体がそれぞれの目的と強い信念を持ちながら活動していることを知りました。改めて敬意を表します。今後さらに長期・大規模な里山の保全を目指すには、企業・大学などの研究機関の力や知識が結集されることも望まれます。

それでは私たちは何から始めたらよいのでしょうか。

まずは外に出て身近な場所を歩き、自然に触れてみませんか。里山の魅力や楽しさを発見すれば、課題にも気づくはず。「自分に何ができるかな」と考えるきっかけになるでしょう。

みどり滴るこの季節。きっとあなたの一歩が、里山のあるこのまちの風景を未来につないでくれます。

📄 お知らせ①

令和4年度 第22回自治会情報交換会

「コロナ禍における自治会活動の現状と課題解決のために」



自治会情報交換会を3年ぶりに開催します。今回はコロナ禍で思うような自治会運営ができず、未解決な課題や新たな地域の課題についての情報・意見の交換を行います。また、コロナ禍でもオンラインを活用して地域活動を積極的に進めている「チーム千代田」の事例を伺います。課題解決のための情報やヒントを得ることで、自治会活動がより充実したものになることを期待しています。

日時：6月30日（木）13：30～16：30

場所：文化センター 203号室

対象：区・自治会の会長、役員ほか

※区・自治会の会長には案内状を送付します

📄 お知らせ②

あなたの活動をアップグレードする！「市民活動マネジメント講座」

現在市民活動を実践している団体やこれから市民活動を始めようとしている人を対象に、みなさんの思いを実現し活動を一層充実させるためのマネジメント講座を開催します。テキストの読み合わせ、ワークシートを使っての意見交換を通じてあなたの視野を広げ、活動をより実りあるものにしていくための講座です。

日時：6月7日（火）10：30～12：00

以降、来年3月まで毎月第1火曜日（8月は除く）を予定

場所：みんなで地域づくりセンター

参加費：無料（ただしテキスト「ソシオ・マネジメントVOL.1 改訂版」

IIHOE [人と組織のための国際研究所] 発行 代金1760円が必要)

対象：地域団体の運営に携わる方

定員：8名程度

※申し込みは電話にて



📄 お知らせ③

「みんなで×捨てない暮らし」

私たちみんながこの地球で暮らし続けていくために2030年までに達成すべき17の目標が「SDGs」。センターでは、この目標に近づくために「捨てない」ことに注目、捨てない暮らしを具体的に学びます。資源を大切に環境にもやさしい暮らし方で心豊かな毎日を過ごしませんか。

Vol.1 「着物で受けつぐ先人のこころ」

家族の歴史や繋がりを感じる着物。タンスに眠ったままの着物を洋服や小物にリメイクする方法や着物の取り扱い方について、講師のお話を聞き、手を動かして学びます。

日時：6月21日（火）13：30～15：00

場所：みんなで地域づくりセンター

参加費：無料

定員：10名程度

※申し込みは6月7日（火）10：00より電話にて

※Vol.2として「段ボールコンポストを作ろう」を予定



着物リメイクの一例

みんなで32号

表紙の写真：「あさひくヌギの里」のメンバー。卯月、窯出しの日の朝

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火～金および第1・3土 9：00～17：00

（休館日は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）

電話：043（304）7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和4年6月1日 発行部数：5,000部

ホームページ



Facebook

